

九州地区子ども会育成研究協議会に参加して

熊本市子ども会育成協議会 理事 松本和朗

第二部会 「かたらんね 子ども会会員減少問題を考えよう2」に参加しました。

私が配置された5班の参加者は、沖縄、佐賀、鹿児島2名（1名は役場職員）、熊本3名（2名は役場職員）、計7名の班でした。

1. まずは、会員減少の分析をしました。お互いの意見を付箋紙に書いて、4ブロックに分けて貼り、大まかに原因を分析まとめてみました。熊本市子協でも分析されている内容でした。

(1) 子ども関係

塾、習い事、部活動、クラブチーム等子ども自身が時間の余裕がない。
遊びが変化している。ゲーム、PC、インターネット等個人で遊ぶことが多い。

(2) 親関係

共働きや母親の就労が多くなり時間のゆとりがない。休日はゆっくり休みたい。
親の子ども会への無関心。役員が負担だと思っている。
リーダーシップをとるのが難しい。協力してもらえない。

(3) 子ども会関係

子ども会活動の意義や内容の理解ができてない。子ども会の必要性を感じられない。
子ども会活動に魅力を感じない。

(4) 社会環境関係

少子化、格差社会、地域の関係性の希薄化、都市化により、遊ぶ場所が少ない。

2. その後、どうしたら増やせるか話し合いました。

- 魅力ある活動をする。マナー化の防止、子どもによる子ども会活動。
- 子ども会活動内容をもっと知ってもらうために、子ども会の意義やメリット等、行政や学校、PTA、自治会、町内、地元へPRする。SNS、LINE、Facebook、インスタグラムを活用して。
- 各地区の自治会、文化的事業他団体等と連携し、理事も地域行事等活動をする。
- 親の意識改革。役員同士楽しいと思える活動をする。
- 財政的支援、他県、県内の自治体では、全子連の負担分を行政が出している。
- 他の子ども会と一緒に活動推進。単位子ども会の連携。組織構成を、自治組織から「学校区」単位を単位子ども会としてとらえる。など。

3. 参加者の具体的な取り組みについて

(1) 行政からの参加者からは。

ひとり親世帯への配慮から子ども会の保険料を自治体で負担している。コミュニティ周りをしている。子ども会と一緒にイベントをしている。学校、PTA、自治会とこれから連携を進めていきたい。

(2) 他の参加者からの具体的な取り組みとして

ミニバレーボール大会、綱引き、大縄跳び、宿泊教室、グランドゴルフ、鬼ごっこ、トランポリン、凧揚げ、スカイランタン、相撲、食べ物で参加者を誘っている、ウォークラリー、流しそうめん、ドローン体験など。

「大人も一緒に楽しめるイベントを考えている」などの話がありました。

4. 最後に

県子連として、協賛企業を募集し、子ども会の会員証を発行して得点の付与を考えている。これらを通して子ども会員を増やしていきたいとの話がありました。熱心な方が多く参加していて、いろいろ考えさせられました。